

教育子ども委員会

説明資料

魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画 (第2次)(案)について

目 次

| | | |
|----|------------------------|----|
| 1 | これまでの経緯 | 1 |
| 2 | 計画(案)の見直しの考え方 | 1 |
| 3 | 計画(案)の見直し | 2 |
| 4 | 今後の予定 | 9 |
| 参考 | | |
| | 「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」について | 10 |

平成30年5月10日

教 育 委 員 会

1 これまでの経緯

| | |
|---------|---|
| 平成29年8月 | ・教育子ども委員会 「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画（第2次） （案）について」 |
| 9月 | ・本会議 教育長答弁 「市立高校全体の将来像について、一旦立ち止まり改めて丁寧に議論する。」 ・保護者説明会 |
| 10月 | ・教育子ども委員会 学校教育部長答弁 「有識者等による懇談会を開催して意見聴取を行い、教育委員会で議論を深めていきたい。」 |
| 11月 | ・「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」開催（～2月） ・同窓会説明会 |
| 平成30年2月 | ・署名受取（「若宮を守る会」より） |

（注）若宮を守る会

若宮商業高等学校の存続を求め、保護者、同窓会、地域の有志を中心に構成された会

2 計画（案）の見直しの考え方

「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」（以下「懇談会」という。）などの意見を踏まえ、計画（案）の「市立高等学校の再編」に関する方向性を、「若宮商業高等学校と高等特別支援学校との併設」に見直す。

（1）見直しを行うことに至った経緯

- 生徒数の推移や商業科のニーズに鑑みると、商業高校を中心として市立高校の再編を進めていくことは必要であり、学校規模や施設の築年数などを総合的に検討した上で、今回の計画では若宮商業高等学校を再編対象校に位置付けている。
- 平成29年12月の進路希望状況調査や平成30年度公立高校入試において、再編の対象としている若宮商業高等学校の希望者数や受検者数が前年に比べて増加しており、ここ数年の傾向との間に違いが生じている。
- 「若宮商業高等学校が一定のニーズを有する学校であり、現時点での閉校よりも高等特別支援学校との併設を検討した方がよい」とする意見が「懇談会」でも数多く出され、教育委員会としても計画（案）の見直しが適切であると判断した。

(2) 見直しの主な観点

- 高等学校が1学年あたり6～8学級を適正規模とする中で、それを下回る学校の教育的なデメリットを併設によって解消することが期待できる。
- 地域との繋がりや高等特別支援学校との併設の利点を活かした新たな観点に基づく商業教育を展開していくことができる。
- 高等学校における特別支援教育のあり方が問われる中、多様な生徒が日常的にともに学び合える環境が整うことにより、インクルーシブ教育の推進を果たすことができる。
- 高等特別支援学校の新設は教育委員会としての喫緊の課題であり、実現に向けた具体的な検討を進めることができる。
- 土地、施設の有効活用や効率的な教職員の配置など、財政的な観点からも併設によるメリットが期待できる。

3 計画(案)の見直し

前述の「計画(案)見直しの考え方」に基づいて、計画(案)のうち、「Ⅲ 本計画における取り組み」の中の「3 市立高等学校の再編」を、次の通り見直す。

3 市立高等学校の再編

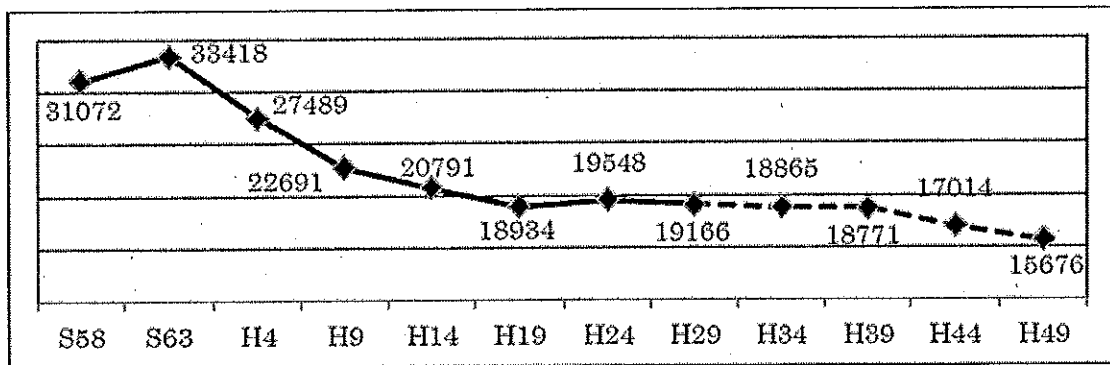
(1) 基本的な考え方

生徒数減少への対応として、これまでは愛知県と名古屋市の双方で募集学級数を順次減らしてきました。学校の適正規模については、愛知県と同様、名古屋市も1学年あたり6~8学級としており、現在は図表7のような状況となっています。

今後は将来的な生徒数の減少や生徒のニーズの状況をはじめとして、施設の老朽化対策や保有資産量の適正化、次期学習指導要領の改訂を踏まえたさらなる市立高等学校の魅力づくりの推進などを総合的に検討し、市立高等学校の再編を進めることとします。

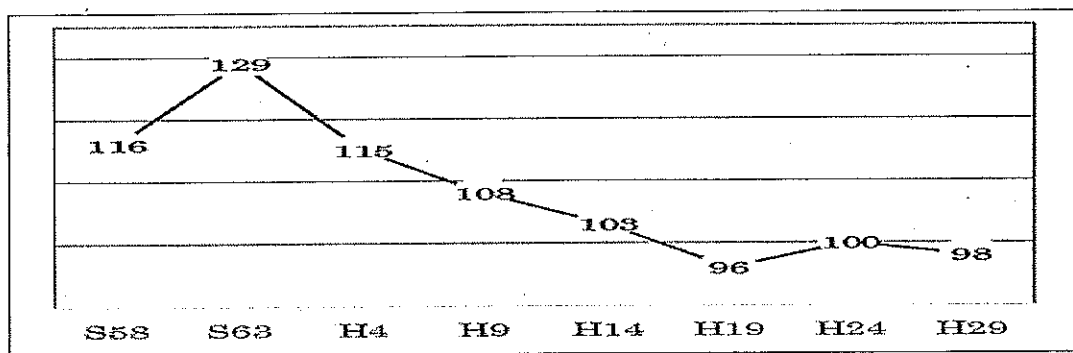
【再掲】 卒業生徒数の推移 (市内中学校)

(単位:人)



図表6 募集学級数(市立高等学校)の推移

(単位:学級)



図表7 1年生の学級数(平成29年度)

| | | | |
|-----|---------------|-----|-------|
| 9学級 | 菊里・向陽・桜台・緑・名東 | 8学級 | 北 |
| 7学級 | 富田・山田・工芸・名商 | 6学級 | 若宮・工業 |
| 5学級 | 西陵 | | |

※ ただし、菊里・向陽・桜台・名東は併設学科1学級を含む

見直し案

P 18 (一部見直し)

3 市立高等学校の再編

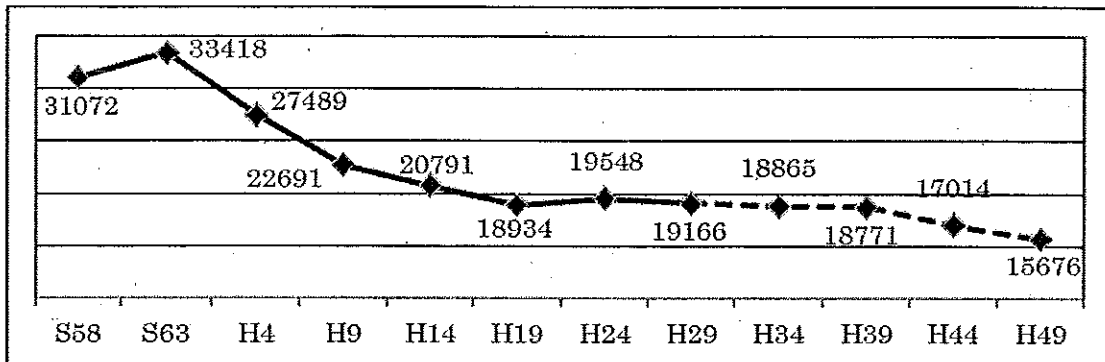
(1) 基本的な考え方

生徒数減少への対応として、これまでは愛知県と名古屋市の双方で募集学級数を順次減らしてきました。学校の適正規模については、愛知県と同様、名古屋市も1学年あたり6~8学級としており、現在は図表7のような状況となっています。

そこで、将来的な生徒数の減少や生徒のニーズの状況をはじめとして、施設の老朽化対策や保有資産量の適正化、次期学習指導要領の改訂を踏まえたさらなる市立高等学校の魅力づくりの推進などを総合的に検討するとともに、外部有識者などから幅広く意見を聴取するために開催した「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」での意見を踏まえ、市立高等学校の再編を進めることとします。(下線部文言修正及び追加)

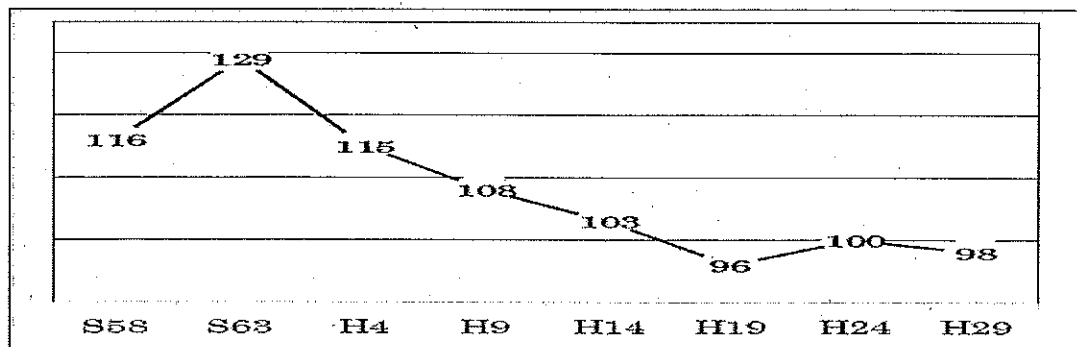
【再掲】 卒業生徒数の推移 (市内中学校)

(単位:人)



図表6 募集学級数(市立高等学校)の推移

(単位:学級)



図表7 1年生の学級数(平成29年度)

| | | | |
|-----|---------------|-----|-------|
| 9学級 | 菊里・向陽・桜台・緑・名東 | 8学級 | 北 |
| 7学級 | 富田・山田・工芸・名商 | 6学級 | 若宮・工業 |
| 5学級 | 西陵 | | |

※ただし、菊里・向陽・桜台・名東は併設学科1学級を含む

P 1 9

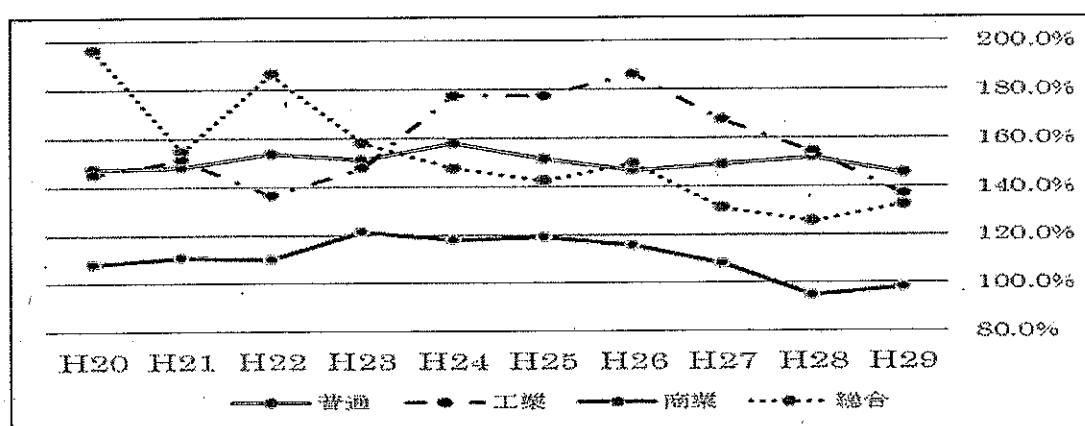
(2) 再編対象校の選定

ア 対象校

商業科に対する生徒ニーズが他の学科よりも低い状況が長年続いており、その上で商業高校としての歴史や伝統をはじめとして、学校規模や施設の築年数などを総合的に検討した結果、若宮商業高等学校を対象校とします。

なお、若宮商業高等学校がこれまで実践してきた特色ある取り組みや長年に渡って積み上げてきた数々の実績については、他の商業高等学校を中心として市立高等学校全体で可能な限り引き継いでいきます。

【再掲】 学科別希望者の割合の推移（市立高等学校関係分）



イ 閉校までのスケジュール

再編にあたっては、在校生への配慮や受検生への事前周知の観点から、生徒募集を平成31年度入学生までとし、最終学年の生徒が卒業となる平成33年度末（平成34年3月）をもって閉校とします。

図表 8 実施工程

| 年度 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |
|------|------|----------------------|--------------|--------------|-----------------------|
| 学校状況 | (周知) | 在籍生徒 1～3年 最終募集 | 在籍生徒 1～3年 | 在籍生徒 2・3年 | 在籍生徒 3年のみ 年度末閉校 |

(3) 閉校後の跡地及び施設の活用

閉校後の跡地及び施設については、高等特別支援学校*の開設など、まずは公的利用を検討します。その上で、今後も公的利用が見込めない場合には、売却あるいは貸付について検討します。

見直し案

P19（左ページ下線部分の削除及び項目の新規追加）

（2）再編対象校の選定

商業科に対する生徒ニーズが他の学科よりも低い状況が長年続いており、その上で商業高校としての歴史や伝統をはじめとして、学校規模や施設の築年数などを総合的に勘案し、若宮商業高等学校を再編の対象校とします。（下線部文言修正）

（以下、項目の新規追加）

（3）「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」

「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」で話し合われた観点や提示された再編に関する具体策等については次の通りです。

<生徒数の推移>

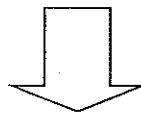
- ピーク時から今日に至るまでの生徒数は大きく減少している。
- 将来的な生徒数についても、減少の度合は正確に計れないものの、少子化の流れは大きく変わるものでない。
 - ※ 学級数の減から学校数の減で対応するものひとつの観点である。

<商業科のニーズ>

- 他の学科に比べて低い状況が続いている。
 - ※ 商業高校を中心に、何らかの形で再編を進めていく必要もある。

<考慮すべき事項>

- 平成29年12月の進路希望状況調査では、若宮商業を希望する生徒数が大幅に増えており、ここ数年の傾向との間に違いが生じている。



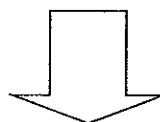
～ 再編に関する具体策 ～

【統合案】

- 名古屋商業、桜台、緑のいずれかに若宮商業を吸収統合
 - ※ 若宮商業の特色ある取り組みを継承（ただし、若宮商業は閉校）

【併設案】

- 若宮商業に普通科、高等特別支援学校のいずれかを併設
 - ※ 若宮商業は学校として存続



当初案

(なし)

見直し案

P20 (項目の新規追加)

～懇談会における主な意見～

- 12月の進路希望調査では、若宮商業高校は、定員を超える第1希望者がいる。希望する者も増えており、そういう学校を減らすのはいかがか。
- 高等特別支援学校では生徒の就労について苦労していると聞いた。若宮という名前が使えれば、これまでの若宮の企業とのつながりや若宮というブランドが活用できるので、併設すればよい面が出ると思われる。
- 特別支援学校と高校との併設校は、県内に3校ある。障害の程度が軽く高校生とのコミュニケーションも取れる生徒で、挨拶もきちんとできる。就労も100%を目指しているので、その姿が高校生の励みにもなる。
- 併設案は、単に空きスペースを活用するというだけでなく、高校側としても生徒が自分と違う生徒と学ぶことで効果があることが見込めるため、どこかで高等特別支援学校の開設をするならば、より効果の高い方法で実現していくべきである。
- 若宮商業高校は野並駅に近いので、障害のある生徒にとって通学しやすい。観光の学習においても障害者対応は必要になってくるので、併設はよいのではないか。
- 市南部に公立高校が少なく、就職を目指す生徒のためにも、若宮商業高校が今の場所からなくなることが大切ではないか。
- 今回、自分にとっては商業科の魅力を再発見する機会ともなった。これからも新たな魅力を増し、地域の皆さんと共にある学校になれるとよい。

(4) 再編の方向性

学校が小規模化することの教育的なデメリットの解消はもとより、地域との繋がりなどの利点を活かした商業教育の展開、多様な生徒が学び合える環境が整うことによるインクルーシブ教育の推進、高等特別支援学校の新設という喫緊の課題への対応も踏まえた上で、高等特別支援学校との併設を検討します。

その際には、教職員の配置などの運営面や既存施設の活用を効率的・効果的にし、余剰資産が生じた場合の有効活用についても検討します。

(5) スケジュール

在校生への配慮や受検生への周知のために、併設に関わる具体的内容をできるだけ早い段階で示すとともに、関係者等への事前説明を適切に行います。

4 今後の予定

| | |
|----------|---|
| 平成30年5月 | 教育子ども委員会 「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画(第2次)(案)について」 |
| 平成30年6月～ | パブリックコメント実施 |
| 平成30年9月 | 「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画(第2次)」策定 |

参考

「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」について

(1) 趣旨

「魅力ある市立高等学校づくり推進基本計画(第2次)」(案)の中でもとりわけ「市立高等学校の再編」の内容について、さまざまな観点から意見を伺うことを目的として、学識経験者や保護者代表、学校関係者といった有識者による「魅力ある市立高等学校づくり懇談会」(以下「懇談会」という。)を開催した。

(2) 構成員名簿

| 氏名 | 役職等 |
|--------|---------------------|
| 小林 慶太郎 | 四日市大学 副学長 |
| 伊藤 恭彦 | 名古屋市立大学 副学長 |
| 東村 誠 | 愛知県経営者協会会員サービス部 部長 |
| 荻原 哲哉 | 愛知県教育委員会学習教育部 部長 |
| 松本 吉男 | 至学館高等学校 副理事長 |
| 倉野 聖大 | 名古屋市立小中学校PTA協議会 副会長 |
| 近藤 晶子 | 名古屋市立高等学校PTA協議会 会長 |
| 市川 裕一 | 名古屋市立城山中学校 校長 |
| 鯉沼 良久 | 名古屋市立向陽高等学校 校長 |
| 横山 大樹 | 教員代表 (小中学校) |
| 齋藤 大地 | 教員代表 (高等学校) |

※ 役職等は懇談会当時で記載

(3) 開催状況

| 開催日 | 懇談内容 |
|-------------|---|
| 平成29年11月22日 | ・計画(案)及び追加資料に関する意見交換 |
| 12月25日 | ・市立高校の再編に関する検討 (再編の具体策の提示など) |
| 平成30年2月19日 | ・市立高校の再編に関する検討 (再編の具体策のメリット・デメリットなど) |

※ 2月19日開催の懇談会には本計画案の再編対象校としている若宮商業高等学校の保護者会及び同窓会の代表者も意見聴取者として参加した。

